



平成 28 年 8 月 22 日

南海電気鉄道株式会社
大阪大谷大学
大阪府立大学
帝塚山学院大学
プール学院大学・プール学院大学短期大学部
桃山学院大学
堺市

「産・学・官」が力を合わせて泉ヶ丘の街を元気にする活動

産学官連携事業 通称「^{ヒロユニファイブ}HIRO-UNI5」がはじまります！！

南海電気鉄道株式会社（社長：遠北 光彦、以下「南海電鉄」）、大阪大谷大学（学長：尾山 眞之助）、大阪府立大学（学長：辻 洋）、帝塚山学院大学（学長：津田 謹輔）、プール学院大学・プール学院大学短期大学部（学長：蔵田 實）、桃山学院大学（学長：牧野 丹奈子）、堺市（市長：竹山 修身）では、泉北ニュータウンおよび泉ヶ丘駅前地域の活性化の一環として、産学官連携事業「HIRO-UNI5（ヒロユニファイブ）」を開始します。

この取組みは、企業（南海電鉄）には「集客・賑わいづくりに若者の視点や感性を取り入れられる」というメリットが、大学には「学生がやりがいや面白みを感じながら社会と関わり成長できる」というメリットが、行政（堺市）には「賑わいづくりの取組みを通して駅前利用頻度の増加や市民サービスの充実を図る」というメリットが期待されます。各大学の得意分野・個性を活かし、「泉ヶ丘の活性化」という共通の目的のもとで、つながり、継続的な活動として育てていきます。

現在決定している各大学の事業内容や詳細は、別紙のとおりです。



学生たちとのロゴマーク制作風景

1. 通称

HIRO-UNI 5（ヒロユニファイブ）

以下の頭文字を取り、親しみやすく分かりやすい名称にしました。

いずみがおか広場、広がるから	「ひろ」
UNIVERSITY から	「UNI」
5つの大学から	「5」



ロゴマーク



いずみがおか広場の「丸い芝生」

communityの「C」、いずみがおか広場の「丸い芝生」を表現した「o」、UNIVERSITYの「U」の3文字を、南海電鉄のコーポレートカラー（ファインレッド・ブライトオレンジ）と泉ヶ丘のグリーン、5大学のロゴのカラーで鮮やかに表現し、南海電鉄と大学がこの地域でつながる様子を表しました。

2. 主体者

南海電鉄、大阪大谷大学、大阪府立大学、帝塚山学院大学、
 プール学院大学・プール学院大学短期大学部、桃山学院大学、堺市

3. 開始日

平成28年8月22日（月）

<これまでの経緯>

平成27年7月から 南海電鉄から5大学および堺市に当事業を打診、協議を開始。

12月から 南海電鉄・5大学合同会議を実施。各大学の事情に応じた個別事業を行うことで合意。

平成28年1月から 各大学のヒアリング結果を受け、事業の方針を決定。

4. 目的

「泉ヶ丘を中心とした泉北ニュータウンの活性化」を大きな目的に据えています。そのうえで、南海電鉄は「各大学や行政の知見や人脈をまちづくりに活かすこと」を、各大学は「大学の知見を社会に還元すること、学生にビジネス体験の場を提供すること」を目的にしています。堺市は「まちの課題を大学や南海電鉄と共有し、共に課題を解決していくこと」を目的にしています。

5. 内容

企業・大学・行政が、様々な世代の市民と交流を図りながら、それぞれの視点や感性を取り入れ、賑わいを作り出す「コト」を実現していきます。現在決定している各大学の事業内容や詳細は、以下のとおりです。

大阪大谷大学は、泉ヶ丘駅前活性化を目的とした任意団体「泉ヶ丘ライブタウン会議」が実施する、ハロウィンパレードやグリーンフェスタなどのイベントへの参画実績があった経緯から、今回の産学官連携事業「HIRO-UNI 5」の広報担当として、本活動の情報発信の役割を担うこととなりました。各大学への取材をはじめ、6月から本事業の通称やロゴを南海電鉄と一緒に考案。また、広報活動を通して、各大学の活動内容を大学間で共有し、活動自体の活性化を促すとともに、新しい活動のアイデア創出にもつなげていきます。



泉ヶ丘ライブタウン会議主催のグリーンフェスタ



ロゴの原案

5大学と南海電鉄のカラーを使ったカラフルなものが多い

2 大阪府立大学 「泉ヶ丘地域の課題発見・増進型地域づくりフィールドワーク」

大阪府立大学は、さまざまなプログラムを通して、学生および教職員が地域社会とつながることを重視しており、大学独自の地域連携モデルを目指しています。今回の事業では、多様な専門領域で学んでいる学生が学問領域を超えて集まり、文理融合的なアプローチで地域調査に取り組みます。泉ヶ丘地域のフィールドワークを通して、新たな魅力の発見に挑みます。ポイントは、地域の抱える問題を解決するというアプローチではなく、理想的な地域づくりのための目的実現型のアプローチを取ることです。斬新な認識と発想で生み出す地域づくりのアイデアは、来春、地域向けの発表会で提案する予定です。



実際に地域を歩くフィールドワークで、魅力発見に挑みます（写真はイメージ）

「泉ヶ丘の特産品ってなに？」そんな問いから生まれたこの企画。帝塚山学院大学人間科学部食物栄養学科健康実践栄養士課程では、企業などと協働して商品を開発した実績があり、その経験を活かして、泉ヶ丘周辺地域にちなんだ素材を使った「泉ヶ丘スイーツ」の製作をすることにしました。これによって泉ヶ丘の情報発信やブランド力アップを狙います。

去る7月19日（火）には、帝塚山学院大学の泉ヶ丘キャンパスにて学生が考えた17品のレシピを泉ヶ丘ひろば専門店街の出店者である和菓子・洋菓子・アイスクリーム・青果店などに提案発表しました。提案した商品については、今秋泉ヶ丘ひろば専門店街で開催予定の、地元を中心とした名品を集めた「ひろばマルシェ(仮称)」での販売を目指します。



提案レシピの数々

素材は近隣地域で活発に生産されるトマト・小松菜や今後の増産が期待されるいちじく・レモンを使用しました



菓子店への提案の様子

学生は緊張しているものの、堂々としたプレゼンを披露していました

4 プール学院大学 「コラージュ絵で発表！こうなってほしい泉ヶ丘の将来の姿」

近年泉ヶ丘地域では、人口減や高齢化が問題となっています。そこで、今後の泉ヶ丘のまちを担っていく子どもたちにまちに愛着を持ってもらうため、泉ヶ丘の好きなところや将来の理想の姿を絵で描いてもらうことにしました。近隣の小学生から絵を公募し、プール学院大学の学生が入賞作品を中心として作品を集め、コラージュにし、一つの絵を完成させます。たくさんの子どものまちの泉ヶ丘に対する想いが詰まった素敵なその絵は、平成29年3月に、泉ヶ丘ひろば専門店街に掲示する予定です。また、同時に南海電鉄・大学・堺市で選定した入賞作品の表彰式を開催し、その会場にて、プール学院大学の学生が子供向けのワークショップを実施予定です。

5 桃山学院大学 「課題発見・解消フィールドワークと若者会議」

これまで、色々な社会の問題を考えてきた桃山学院大学の「社会学部生リーダー育成プロジェクト・社会調査応用プログラム」。今回そのメンバーは、若者が将来にわたって住み続けたいと思うまちを泉ヶ丘および泉北エリアでどう実現していくか考え、まちの魅力づくりを図ります。泉ヶ丘の魅力や課題を、南海電鉄・学生・堺市の担当者が意見交換を行ったうえで、フィールドワークを行い、まちの魅力づくりについてまとめ、来春には地域の皆さんにも参加いただいて提案発表会を実施します。また、地域の皆さんと協働をして提案を実現していくためのプラットフォ

ームとして「若者会議」の立ち上げも計画しています。実施に先立ち、去る5月30日（月）には、同プロジェクト主催の「しゃがく Café」にて、南海電鉄と堺市が学生に向けて泉ヶ丘の課題や展望について講演しました。



しゃがく Café で講演する南海電鉄および堺市の職員

※実施内容・時期などは予告なく変更になる場合があります。

※各大学の取組みの詳細につきましては、決まり次第、南海電鉄が発行するいずみがおか広場の情報誌「HIRO-MARU（ひろまる）」などでお知らせします。

《参考》各大学の所在地

大阪大谷大学 志学台キャンパス：大阪府富田林市錦織北3丁目11番1号

大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス：大阪府堺市中区学園町1番1号

帝塚山学院大学 泉ヶ丘キャンパス：大阪府堺市南区晴美台4丁2番2号

プール学院大学・プール学院大学短期大学部：大阪府堺市南区槇塚台4丁5番1号

桃山学院大学：大阪府和泉市まなび野1番1号

以上